

## Editor's Note

---

多くの関係者・会員皆様のご協力のおかげで、ここに『現代ディスクロージャー研究』第10号をお届けすることになりました。一昨年11月の理事会において、本学会誌の編集を担当する役職をお受けして以来、慣れない業務に当初、翻弄されていましたが、最初の出版を終えることができ本当に安堵しています。

本学会誌の編集にあたっては、薄井彰前委員長から引き継いだメンバーに5名の新委員を追加して編集委員会を編成して、その業務を開始しました。この10号については、次頁（編集データ）に示されるように6本の応募が寄せられ、厳正な審査の結果、2本が採択されました。ひとつはわが国の会計学の研究状況を鋭く分析し、今後の改善案を提示した貴重な論文で、もうひとつは最近、ひろがりつつある実体的な報告利益管理をとりあげた先駆的な論文であります。いずれも、昨年5月に名古屋国際センターで開催された第3回現代ディスクロージャー研究カンファレンスの報告論文であり、討論者のコメント及び査読意見を含めて十分に検討され、修正を重ねて完成されたものです。

本学会誌は創刊当時からレフェリー制を導入しており、第1号から第10号までに掲載されたものは、論文35本、ディスカッション5本、実務展望3本、そして、研究ノート6本となっています。論文セッションの採択率は、多少変動はありますが、平均で56%となっています。数的には多くありませんが、ディスクロージャーに関連する分野における学術的なコミュニケーションの場を提供してきました。そして、今後も、この分野の研究の発展に、本学会誌が役立てられることを心より願っております。

最後になりますが、奥村・坂上両副委員長をはじめ編集委員の方々には、業務の様々な局面において多大なご協力とご支援をいただきました。また、査読委員の方々には、厳しい時間的制約の下で査読を担当していただきました。併せて感謝申し上げます。

編集委員長  
吉田和生

## 編集データ

『現代ディスクロージャー研究』第10号の編集状況は次の通りである。すべての原稿は、編集委員会が採否を決定した。論文セッションの原稿は、複数の匿名査読委員によってレビューされている。討論セッションの原稿はレビュープロセスを実施していない。

### 論文セッション

|              |         |
|--------------|---------|
| 受付数          | 6       |
| うち、          |         |
| 受理数（採択率）     | 2 (33%) |
| 条件付採録決定・未受理数 | 1       |

### 討論セッション

|     |   |
|-----|---|
| 受付数 | 2 |
| 受理数 | 2 |

編集委員会

## 謝 辞

査読委員の長期にわたる真摯なレビューがなければ、学会誌の品質はけっして確保できませんでした。現代ディスクロージャー研究編集委員会は、ここに記して、第10号の査読委員の皆様へ感謝の意を表します。謹んで御礼申し上げます。なお、査読プロセス中の査読委員につきましては、採録決定まで掲載を差し控えさせていただきます。

|       |        |
|-------|--------|
| 浅野 信博 | 大阪市立大学 |
| 石川 博行 | 大阪市立大学 |
| 榎本 正博 | 東北大学   |
| 音川 和久 | 神戸大学   |
| 木村 史彦 | 東北大学   |
| 首藤 昭信 | 神戸大学   |
| 鈴木 健嗣 | 東京理科大学 |
| 竹原 均  | 早稲田大学  |
| 中條 祐介 | 横浜市立大学 |
| 中野 誠  | 一橋大学   |

(敬称略、五十音順)

編集委員会